

会 告

第 100 回 (秋季) 講演大会見学会・懇親会開催のお知らせ

本会は第 100 回秋季講演大会を昭和 55 年 10 月 18 日(土)、19 日(日)、20 日(月)の 3 日間九州大学工学部で開催いたしますが、これを機会に 10 月 18 日懇親会、19 日婦人見学会、21 日(火)見学会を下記により開催いたしますので、奮ってご参加下さいますようご案内いたします。

なお、講演大会の詳細ならびにジュニアパーティについては追ってお知らせいたします。

九州大学工学部：福岡市東区箱崎 6 丁目 10-1 Tel. (092)-641-1101

記

1. 見学会の申込みについて

期 日 昭和 55 年 10 月 21 日(火) 1 班～3 班 (コース詳細次ページ掲載)
参 加 費 1 班 4,000 円、2 班 3,500 円、3 班 3,500 円 (各班含昼食費)
申込締切 昭和 55 年 9 月 16 日(火)

見学会参加申し込み上の注意

1. 別紙申込書(197 ページ掲載)により 9 月 16 日までに必着するようお申込み下さい。
定員は各班とも 50 名といたしますが申込みが多数の場合は抽選により決定いたしますので、申込書には第 2 希望までご記入下さい。
2. 申込みと同時に参加費(第 1 希望班の該当参加費)をお払込み下さい。参加費の払込みのない申込みは受理いたしません。なお、会費にはバス代、昼食代を含みます。
3. 見学希望者が少ない場合、または見学先の都合により見学を中止する場合があります。
4. 見学申込みの取消しは 9 月 20 日までは返金いたしますが、それ以後の取消しは返金いたしかねます。
5. 見学班の決定通知は本会より 10 月 5 日ごろお知らせいたします。
6. 同業者の見学をお断りする場合がありますことを予めご承知おき下さい。
7. 定員は鉄鋼協会、金属学会両会の合計です。

◆ 婦人コース以外は工場内での写真撮影を禁止いたします。

2. 懇親会の申込みについて

講演大会に際し全国各地からお集りになる会員各位の親睦の場として、下記のごとく懇親会を開催いたします。会費などについてもより多くの方々にお気軽にご参加いただけるようにいたしました。

また、この機会に会員各位ご夫人同伴でご参加いただき、より明るい雰囲気での催しとしたいと思いますので、多数ご参加下さるようご案内申し上げます。

期 日 昭和 55 年 10 月 18 日(土) 18:00
会 場 福岡国際ホール(西日本新聞会館ビル 16 階)
福岡市中央区天神町 1-4-1 TEL (092)-712-8855
会 費 6,000 円(同伴のご夫人はご招待いたします)。
申込締切 昭和 55 年 9 月 27 日(土)
参 加 券 領収証とともに申込締切後お送りいたします。

3. 婦人見学会について

期 日 昭和 55 年 10 月 19 日(日)
コ ー ス 呼子・唐津城・博多人形 他
会 費 5,000 円(含昼食費)
申込締切 昭和 55 年 9 月 27 日(土)
参 加 券 領収証とともに申込締切後お送りいたします。

4. 申込方法

上記「申込み上の注意」をご覧のうえ、別添申込用紙に必要事項を記入し、参加費(現金書留)を添えお申込み下さい。会費の添付されない申込み、銀行振込ならびに郵便振替による申込みは受付いたしません。

なお、本大会参加者の宿泊については、東急観光(株)福岡営業所(092-711-1101)でお世話しております。別紙案内ご覧のうえ、観光シーズンでもありますので、各自早目にお手配下さい。

5. 申 込 先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会講演大会係

注) 見学会、懇親会申込書は本誌会告(197 ページ)に掲載いたしております。

注) 大会期間中の宿泊案内は本誌会告(次ページ)に掲載いたしております。

日本鉄鋼協会秋季大会見学会

工場見学：10月21日（火）

申込締切：9月16日（火）

班別 (定員)	見学～観光先	所在地	内 容	見学時間	集合時刻・場所 解散時刻・場所	備 考
1 (50名)	新日本製鐵(株) 八幡製鐵所	北九州市八幡東区 枝光 1-1-1	戸畑第一高炉工場 戸畑第一転炉工場 第二熱間圧延工場	9:20 ～10:50	集合 (8:45) 小倉駅北口 新幹線側	①参加費 4,000 円 (昼食代を含む) ②貸切バス利用 (鶴丸航空) ③昼食は萩レストショ ップ未益
	萩市内観光	山口県萩市	松陰神社萩焼窯元 明神池、東光寺他	13:00 ～16:00	解散 (18:30) 小倉駅北口	
2 (50名)	新日本製鐵(株) 大分製鐵所	大分市大字 西ノ洲 1	第二高炉工場 連続熱間圧延工場	9:30 ～11:30	集合 (8:45) 大分駅前	①参加費 3,500 円 (昼食代を含む) ②貸切バス利用 (大分バス) ③昼食は大飼ドライブ イン
	臼杵石仏観光	大分県臼杵市	風連鐘乳洞 臼杵石仏	13:00 ～16:00	解散 (17:00) 大分駅前	
3 (50名)	三菱重工業(株) 長崎造船所	西彼杵郡香焼町 180	香焼工場	11:20 ～12:30	集合 (10:30) 長崎駅前	①参加費 3,500 円 (昼食代を含む) ②貸切バス利用 (長崎県営バス) ③昼食はシエフロンホ ール
	長崎市内観光	長崎県長崎市	大浦天主堂グラバ ー園・平和祈念像 国際文化会館	13:40 ～15:45	解散 (16:00) 長崎駅前	

婦人コース：10月19日（日）

申込締切：9月27日（土）

婦 人 コース (35名)	福岡市内・ 唐津観光	福岡県福岡市 佐賀県唐津市	呼子 唐津城 鏡山（虹の松原） 大濠公園 博多人形、他	10:00 ～17:00	集合 (9:45) 博多駅筑紫口 新幹線側 都ホテル前 解散 (17:30) 博多駅	①参加費 5,000 円 (昼食代を含む) ②貸切バス利用 (西鉄バス) ③昼食は唐津
---------------------	---------------	------------------	--------------------------------------	-----------------	---	---

- (注) 1. 婦人コース以外は工場内での写真撮影をお断りいたします。
 2. 各班の定員は両学会合計 50 名とします。参加者が少ない場合、または都合により見学を中止することがあります。
 3. 見学会費にはバス代、昼食代等が含まれております。
 4. 同業者の見学をお断りする場合がありますことを予めご了承下さい。

秋 季 講 演 大 会 宿 泊 の ご 案 内

標記大会期間中の宿泊について下記の通り東急観光福岡営業所で宿泊の斡旋をすることになりましたので、ご希望者はお申込下さい。なお大会の開催される頃は観光シーズンのためお早目にお申込頂きますようお願いいたします。

- ・ **宿泊料金クラス**（ホテルは1泊朝食付，税，サービス料込み料金です）
 Aクラス：利用ホテル；博多東急ホテルアネックス（市内中心部） 6,500 円（1泊1人）
 Bクラス：利用ホテル；ホテルリッチ博多（博多駅近く） 5,000 円（1泊1人）
 法華クラブ福岡店新館
- ・ **申込み方法**：下記申込書式例により宿泊予納金1人1泊につき 3,000 円を添え，現金書留にてお申込み下さい。
 ・ グループでホテルに宿泊をご希望される場合は，宿泊日ごとに宿泊名簿を同封下さい。
 ・ 申込書到着後宿泊券をお送りしますので，当日必ずご持参下さい。宿泊料金の差額についてはホテルにてご精算下さい。
- ・ **申込み締切**：9月30日（火）なお，お申込み後の取消，変更は10月7日（火）までにご連絡のあるものについては宿泊予納金を返金いたしますが，それ以後は返金いたしませんのでご了承下さい。
- ・ **申込み先**：〒810 福岡市中央区天神1丁目15番3号（福岡東急観光ビル2階）
 東急観光(株)福岡営業所 Tel. 092 (711) 1101 (代)
 日本鉄鋼協会・日本金属学会 秋季大会宿泊係

(申込書式例)

日本鉄鋼協会・日本金属学会 秋季講演大会宿泊申込書

氏 名	連絡先〒				TEL
(宿泊券送付先)	勤務先				TEL
氏 名 (ふりがな)	希望クラス	宿 泊 月 日			
		10/17	10/18	10/19	10/20
	A・B				
		(宿泊予納金)			
		3,000 円× 泊× 名			
		=送金合計 円			

昭和 55 年度秋季講演大会参加申込書

見 学 会	希望順位	班 別	送 金 額
		第1班：新日本製鐵(株)八幡製鐵所，萩市内観光	4,000 円
		第2班：新日本製鐵(株)大分製鐵所，臼杵石仏観光	3,500 円
		第3班：三菱重工業(株)長崎造船所，長崎市内観光	3,500 円
		婦人見学会 (出席者氏名)	5,000 円
懇 親 会 出 欠		ご夫人の出欠(招待) 出 欠 ご夫人名	6,000 円
会員資格		員	送金額合計 円
通 信 先 (〒)			
氏 名			
勤務先，職名			
領収書送付先 (通信先と異なる場合)			

第 100 回 (秋季) 講演大会コメントならびに質問募集案内

本会は、第 100 回講演大会を昭和 55 年 10 月 18 日～20 日九州大学で開催いたしますが、そのさい開催される討論会は下記の通りとなりました。本討論会の講演概要は 8 号巻末に掲載されておりますので、内容ご覧のうえ講演に対するコメントならびに質問をご投稿下さいませようお願いいたします。

1. 投稿締切日 昭和 55 年 9 月 8 日 (金)
2. コメント，質問原稿 任意の用紙に，どの講演に対するコメントあるいは質問であるかを明記し，ご執筆下さい。回答は当日会場で行われます。
3. 送 付 先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021

(なお，本討論会講演概要は 8 号巻末に掲載されるのみですから，当日は当概要をご持参下さるようお願いいたします。)

I 高炉燃料比の理論限界 座長 鈴木 駿一

討 1 大型高炉における燃料比の理論限界

新日鉄大分 ○和栗真次郎, 金森 健, 白川 充社
 “ 本社 若山 昌三

討 2 高炉低燃料比達成のための原料性状と原料処理技術

川鉄水島 山田 孝雄

討 3 オールコークス操業における燃料比の限界

住金本社 中村 文夫, 中技研 梶原 義雅, 山県 千里
 和歌山 ○水野 豊, 細井 信彦, 鹿島 渋谷 進一

討 4 直接還元法における燃料比の限界

東大工 相馬 胤和

II 溶銑予備精錬 座長 中川 龍一, 副座長 堀口 浩

討 5 溶銑予備精錬技術における基本的問題の考察

東北大選研 ○大谷 正康, 徳田 昌則, 井上 博文

討 6 ソーダ灰を利用した新製鋼法

鋼管福山研 ○山田 健三, 宮下 芳雄

“ 福山 栗山 伸二, 中島 龍一, 半明 正之, 田口喜代美

討 7 ソーダ灰による溶銑予備処理法の検討

住金鹿島 ○丸川 雄浄, 城田 良康, 姉崎 正治, 平原 弘章

討 8 ソーダ灰による溶銑の連続精錬

新日鉄生産技研 ○山本 里見, 石川 英毅, 松尾 輝夫
 “ 八幡 梶岡 博幸

討 9 連続製鋼法における粉体吹込みの効果

金材技研 福沢 章

III 厚板圧延における歩留向上技術 座長 日下部 俊

討 10 厚板圧延における平面形状制御方法

川鉄水島 平井 信恒, 吉原 正典, ○坪田 一哉, 菊川 裕幸

討 11 差厚幅出し圧延法の開発

川鉄千葉 饗場 満雄, 渡辺 秀規, 高橋 祥之, 金田 欣亮

討 12 エッジャー法による厚板の高歩留圧延法

新日鉄名古屋 ○笹治 峻, 久津輪浩一, 堀部 晃, 野原 由勝, 山田 稔久
 “ 生産研 渡辺 和夫

討 13 厚板圧延における形状制御

鋼管福山研 ○升田 貞和, 平沢 猛志, 市之瀬弘之

“ 福山 田中 明広, 鎌田 正誠, 平部 謙二

討 14 厚板平面形状認識装置と最適スラブ設計解析システム

住金和歌山 萩原 康彦, ○久保多貞夫, 八柳 博

“ “ 川畑 友明, 森本 哲生

討 15 厚板のプレートクラウン制御に関する研究

神鋼加古川 ○大池 美雄, 木川 佳明, 小久保一郎

“ 技開 平野 坦

討 16 厚板圧延における板幅制御

住金中技研 ○横井 玉雄, 美坂 佳助

“ 鹿島 吉松 幸敏, 木村 俊一, 大高 脩

IV 冷延高張力鋼板 座長 大橋 延夫

討 17 冷延高張力鋼板の自動車への適用

トヨタ自動車工業 ○朝倉 昭二, 越野 健司, 岩崎 誠夫

討 18 高張力鋼板の車体への適用

日産本社 ○塩川 昌男, 古林 忠

討 19 冷延 dual phase 鋼板のためのプロセス要因

新日鉄基礎研 ○古川 敬, 森川 博文, 遠藤 道雄

“ 君津 武智 弘, 小山 一夫

“ 広畑 秋末 治, 山田 輝昭

討 20 複合組織型鋼板の引張特性プレス成形時の形状性および深絞り成形後の靱性と組織との関係

神鋼中研 ○須藤 正俊, 東 正則, 大木 継秋

“ 堀 広巳, 柴田 善一, 神戸 章史

討 21 自動車外板用新冷延二相鋼の特性

鋼管技研 ○西本 昭彦, 細谷 佳弘, 中岡 一秀

討 22 冷延高張力鋼板の成形性を支配する冶金学的要因

川鉄技研 ○入江 敏夫, 橋口 耕一, 佐藤 進
小西 元幸, 高橋 功, 橋本 修

討 23 箱焼鈍法によるパネル用高張力冷延鋼板の製造と冶金的特徴

住金中技研 ○岡本 篤樹, 高橋 政司
〃 本社 日野 貴

V 応力腐食割れ感受性の評価方法 座長 春山 志郎

討 24 ステンレス鋼の高温水 SCC 感受性評価法の適用性

日立日立研 ○服部 成雄, 国谷 治郎, 森 康雄, 正岡 功
〃 日立 伊藤 久雄

討 25 高温高圧水に対するステンレス鋼の耐応力腐食割れ性の評価法

住金中技研 ○長野 博夫, 柘植 宏之, 丸山 信幸

討 26 高温水中におけるオーステナイトステンレス鋼の塩化物応力腐食割れ

および高温水粒界応力腐食割れに及ぼす pH, 印加電位および鋼組成の影響

神鋼中研 ○泊里 治夫, 藤原 和雄, 下郡 一利, 福塚 敏夫

討 27 SERT法によるオーステナイトステンレス鋼の濃厚塩化物中における応力腐食割れ

東北大金研 ○高野 道海

〃 院 中村 和啓, 中山 武典

討 28 オーステナイトステンレス鋼の応力腐食割れ試験による SCC 感受性の評価

住金中技研 小若 正倫, ○山中 和夫

討 29 溶接試験片による低濃度食塩水中のステンレス鋼の応力腐食割れ感受性

川鉄技研 ○増尾 誠, 小野 寛

討 30 304 ステンレス鋼の応力腐食割れ感受性

東工大精研 ○布村 成具, 肥後 矢吉

〃 院 高島 和希, 小日向 忠

長岡技大 M. W. RINGSHALL

討 31 AEによる応力腐食割れ感受性の評価

東大宇宙研 ○岸 輝雄, 〃 院 湯山 茂徳, 〃 工 久松 敬弘

「鉄 と 鋼」 特集号原稿募集案内

テーマ：鋼の連続鑄造の進歩

原稿締切日 昭和 55 年 10 月 20 日 (木)

昭和 56 年 6 月号 (第 67 年第 7 号) に鋼の連続鑄造技術の特集号を企画しております。前回の連鑄特集号 (1974 年 6 月) 発刊よりはや 7 年が経過し、その間我が国の鋼の連鑄化率は飛躍的に増大しました。これに呼応して鋼の凝固理論の進展はもとより、操業の自動化鑄片品質の向上、生産性の向上などに関する多種多様の技術が開発され実用化されて多大の成果をえてまいりました。今回これら鋼の連続鑄造に関連する諸技術の発展をまとめるため“鋼の連続鑄造技術の進歩”を主題に諸兄の原稿を募集いたします。奮って御応募ください。

記

1. テーマ 鋼の連続鑄造の進歩

2. 原稿締切日 昭和 55 年 10 月 20 日 (木)

3. 発行 鉄と鋼, 第 67 年 7 号(昭和56年 6 月号)

4. 原稿枚数 表, 図, 写真を含めて所定の原稿用紙

1) 論文 50 枚以内 (刷上り 10 ページ以内)

2) 技術報告 35 枚以内 (刷上り 7 ページ以内)

3) 原稿は本会投稿規定に基づいて執筆下さい。

4) 投稿された論文は編集委員会において審査されます。

5. 問合せ・原稿送付先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 F

(社)日本鉄鋼協会編集課特集号係 電話 03-279-6021

(注) 投稿時, 原稿表紙に「製鋼特集号」と朱書して下さい。

昭和 56 年春季 (第 101 回) 講演大会討論会

討 論 講 演 募 集 の お 知 ら せ

昭和 56 年春季 (第 101 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉における事前処理鉬の役割 座長 大森 康男, 副座長 佐々木 稔

高炉における事前処理鉬の役割を一層明確にするため、つぎの諸項目に焦点を絞り、処理鉬製造側と高炉操業者、製鉄研究者と技術者の主題に対する対話の形で討論を進めたいと考えている。1) ペレット、焼結鉬の品質改善を目的とした塊成鉬製造新技術、2) 高炉の分布制御と操業成績の関係、3) 炉内における降下挙動と反応（とくに炉下部）、4) 性状管理の基本的考え方、5) 装入物状態の定量化、広く製鉄分野の技術者、研究者の参加を期待する。

2) スラブ連鑄の省エネルギー 座長 田桐 浩一

連鑄法そのものが大幅な省エネルギープロセスであることは言うまでもないが、最近連鑄材の品質安定化にともなつて連鑄材のホットチャージ・ダイレクトロール等が拡大されてきた。今回はこれらの現状とそれを可能にする無欠陥鑄片製造技術、高温出片等の操業技術および熱間スラブの品質保証方法等を主体に基礎的研究から現場的問題まで、幅広い範囲で積極的な発表をお願いしたい。

3) 熱間圧延変形抵抗の数式モデル 座長 中川吉左衛門

圧延作業の制御の目的や方法は多様かつ高精度になつてきている。したがつて、圧延作業状況の把握に用いる圧延変形抵抗値に対しても、非常に高い精度が要求されてきている。熱間圧延の変形抵抗に対しては、パス間の回復現象の遅れなどの取扱いが現在の大きな問題点となつている。熱間薄板圧延や厚板圧延におけるパススケジュールを考慮した変形抵抗の数式モデルに関して、基本的な考え方から実圧延への応用までにわたつて、積極的な討論を期待したい。

4) 鉄鋼の表面硬化処理に関する最近の動向 座長 小川喜代一

西独を中心とするヨーロッパ、日米などで近年工業化された表面硬化法につき、一例として下記題目などに関する講演を希望する。

- i) 真空法による各種表面硬化（真空浸炭、真空イオン浸炭、その他）
- ii) 各種炭化物による法（TiC, TiN, VC, 硼化法……）
- iii) 部品の耐久性向上処理（イオン窒化、加圧窒化、放電硬化法……）
- iv) 耐蝕、耐摩耗めつき法（N-P, Fe-W, Duralloy (swiss)……）

5) 高 Mn 系非磁性鋼の特性と問題点 座長 井上 正文

高 Mn 鋼は古くから知られている。バッドフィールド鋼に始まり、安価な非磁性鋼、耐摩耗用鋼として広く使われて来た。

近年、リニアモーターカーの軌条用として、また核融合装置部材として注目されて以来、新たな角度からの研究が種々行われている。今回は特に高 Mn 鋼の欠点である、被削性、熱膨張係数の改良と、強度、靱性の向上を中心に磁性、耐摩耗性を含め論文発表討論を行う。更に今後本鋼の幅広い分野への利用を期待し、実製品への応用例等の発表も併せてお願いしたい。

2. 申込締切日 昭和 55 年 8 月 8 日 (金)

3. 申込方法 7号会告末に綴込みの申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演のアブストラクトをお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のアブストラクトにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和 55 年 11 月 7 日 (金)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内（表、図、写真を含め 1 ページ 6,700 字）に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 67 年第 1 号 (昭和 56 年 1 月号) にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 67 年第 2 号 (2 月号) に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 56 年 2 月末日

前記 2 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

第 69・70 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— ブルーム、ビレット連続铸造技術の最近の進歩 ——

主催 日本鉄鋼協会

第 69・70 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいますようご案内いたします。

I 期 日 第 69 回 昭和 55 年 9 月 2 日(火), 3 日(水)

東京 農協ホール (千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階)

第 70 回 昭和 55 年 9 月 18 日(木), 19 日(金)

大阪 科学技術センター大ホール (大阪市西区靱本町 1-8-4)

II 演題ならびに講師

第 1 日	9:30~10:30	総 論	新日本製鉄(株)取締役 大分製鉄所副所長	
			日本鉄鋼協会製鋼部会長 山本 全作	
	10:40~12:10	ブルーム・ビレット連続機の設定と操業	(株)神戸製鋼所神戸製鉄所製鋼部長 大西 稔泰	
	13:00~14:30	ビームブランク铸片の連続铸造	川崎製鉄(株)水島製鉄所製鋼部主査 大森 尚	
	14:40~16:10	シームレスパイプ用铸片の連続铸造	日本鋼管(株)京浜製鉄所製鋼部長 楯 昌久	
第 2 日	9:30~11:00	線材用铸片の連続铸造	住友金属工業(株)小倉製鉄所製鋼部長 中谷 元彦	
	11:10~12:40	条材用铸片の連続铸造	新日本製鉄(株)室蘭製鉄所技術研究室長 伊藤 幸良	
	13:30~15:10	ステンレス鋼および耐熱鋼のブルーム・ビレットの連続铸造	大平洋金属(株)八戸工場製鋼課長 山田 桂三	
	15:10~16:40	特殊連続機について	(株)日立製作所日立工場機械設計部主任技師 木村 智明	

III 講演内容

1. 総 論 山本 全作

全国粗鋼生産量の過半を占めるにいたつた連続処理鋼と、その中におけるブルーム・ビレット用連続の位置づけ・特徴を概括するとともに、設備・操業・品質等の当面の動向・課題について総括的に述べる。

2. ブルーム、ビレット連続機の設定と操業 大西 稔泰

ブルームおよびビレット連続機に関して、連続工場・設備の配置、主要諸設備のそれぞれの解説と近年における改善内容、各種連続設備型式と型式選択の観点について述べる。さらに、連続機に供給される溶鋼の事前処理をふくめ铸片品質の改善、生産性向上のための計測・制御、自動化技術および耐火物、電磁攪拌技術についても、連続の操業と関連して論説する。その他、特殊連続機についても簡単に述べる。

3. ビームブランク铸片の連続铸造 大森 尚

ビームブランク連続铸造のニーズと、その歴史について触れ、日本および世界のビームブランク連続機を概観する。ビームブランク連続機の設定上の特徴について、タンディッシュおよび、モールドから、ガス切断機までを、ブルーム連続機と比較し、さらに操業および铸片品質の特徴と、その改善状況を示し、铸造鋼種の拡大について述べる。最後に連続製ビームブランクの経済性と利用圧延技術を述べ、ビームブランク連続铸造の今後を展望する。

4. シームレスパイプ用铸片の連続铸造 楯 昌久

シームレスパイプ用ビレットに関する一般的特性と連続化の背景について検討し、シームレス用素材の連続に対する考え方を述べる。さらにシームレスパイプ用素材に関する連続铸造の最近の進歩について、(1)生産性の改善、(2)品質の改善、(3)省資源、省エネルギー技術、(4)自動化、省力化技術、(5)耐火物、(6)溶鋼予備処理技術、(7)ビレット精整などの関点から記述すると共に、今後の動向について展望する。

5. 線材用铸片の連続铸造 中谷 元彦

加工技術の高度化にともない、線材の用途は多岐にわたるとともに、その品質要求もますます厳しくなっている。冷鍛材、タイヤコード用線材等はその好例である。

本稿では線材および炭素鋼小棒を対象としているが、本来最初の CC 化の対象であつたこの分野でも近年とくに高級鋼への適用拡大が、急ピッチで進んでいる。それは CC 材の品質が良好で、かつ安定していることによるが、その CC 化の背景と現状について概説する。

6. 条材用铸片の連続铸造 伊藤 幸良

条鋼製品の内、各種形鋼、鋼矢板、一般棒鋼など高度な品質を要求されない材料は、早くから連続铸造によつて製造されていたが、特殊鋼棒鋼、軌条などの品質要求レベルの高い材料の連続化は遅れていた。しかし、最近取鍋精錬をはじめとした清浄鋼製造技術、連続における偏析改善技術などの確立により、自動車用高級棒鋼の連続化が急速に進み、鋼塊法以上の品質レベルが達成されている。軌条についても連続化が着々と進められている。本講では高級条

鋼の連続について、品質面を中心に最近の技術を展望する。

7. ステンレス鋼および耐熱鋼のブルーム、ビレットの連続製造 山田 桂三

ステンレス鋼および耐熱鋼のブルーム・ビレットの連続製造技術として、現在各社で開発されている無酸化製造および電磁攪拌を中心に説明する。さらにこれら鋼種の代表として、303 (快削ステンレス鋼), 310 (オーステナイト単相鋼), 321 (含 Ti ステンレス鋼), 420 (マルテンサイトステンレス鋼) XM-7 (含 Cu ステンレス鋼), 鉄-Ni 合金 (57%Ni 合金) 等について連続製造を行う場合の基本的問題点、連続片に発生する欠陥例および現状の連続製造法等について説明するとともに、今後の展望についても言及する。

8. 特殊連続機について 木村 智明

最近、製造輪とベルトで鑄型を構成する同期回転式連続法、あるいは鑄型を水平に配置する水平連続法等により鋼ビレットを製造する技術が試験的乃至は実機設備により確認された。ここではこれらの連続法の設備構成・操業結果等について説明する。また高速鑄造が可能な同期式回転連続方式については、省エネルギーおよび歩留り向上を目的とする連続機と圧延機の直結方式の可能性について検討した結果を紹介する。

IV 聴講無料 (事前の申込みは必要ありません)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

第 23 回自動制御連合講演会講演募集のお知らせ

主催学協会：計測自動制御，機械，日本自動制御各学協会，参加学協会：日本鉄鋼協会ほか

幹事学協会(問合せ・申込・原稿送付先)

日本自動制御協会 (〒606 京都市左京区吉田河原町14 近畿地方発明センタービル内 電話 (075) 751-6413)

開催期日：昭和55年11月20日(木)，21日(金)，22日(土)

会場：京都工芸繊維大学工学部 (〒606 京都市左京区松ヶ崎 TEL (075) 791-3211)

申込みおよび原稿提出締切日：

昭和55年 8 月30日 (土) 必着

講演申込金：3000円

核融合連合講演会のご案内

共同主催：応用物理学会，核融合懇談会，電気学会，日本金属学会，日本原子力学会，日本物理学会

協賛学協会：日本鉄鋼協会，ほか

内容 核融合炉システム，炉心プラズマ，磁場系，電源，照射損傷，真空系，表面物理，ブランケット工学，炉材料，生物影響，資源等を中心として一般講演(すべてポスター形式)を行う。すでに発表されたものでもさしつかえない。

日時 昭和56年 2 月 4 日(水)～6 日(金)

会場 工業技術院筑波研究センター

講演者資格 共同主催および協賛学協会会員

参加費 1 人につき 4,000 円 (学生は 3,000 円)。講演申込または参加申込と同時に事務局へ払込むこと。参加者には予稿集およびプログラム各 1 部を会場受付で渡す。

講演申込期限 昭和55年 9 月30日(火)正午(事務局必着)

事務局 〒464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学プラズマ研究所内

「核融合連合講演会」実行委員会事務局

052-781-511 内線 4547

第 33 回腐食防食シンポジウム

〔主題〕 低ひずみ速度応力腐食割れ試験法 (SSRT 法) の原理と応用

主催 腐食防食協会 協賛 日本鉄鋼協会，ほか
日時 昭和55年 9 月19日 (金) 10:00～16:30

場所 機械振興会館地下 3 階 1 号 (東京都港区芝公園 3 丁目 5-8 電 03-434-8211)

講演

1. 応力腐食割れとひずみ電極

北大工 柴田 俊夫

2. SSRT 法と割れ機構

東北大金研 高野 道典

3. SSRT 装置と割れ感受性の表示法

新日鉄基礎研 阿部征三郎

4. SSRT 法と従来の試験法との対応

石川島播磨技研 明石 正恒

5. SSRT 法と繰り返し応力負荷法との関係

東芝総研 菱田 護

6. 水素脆化試験への SSRT 法の適用と問題点

金材技研 青木 孝夫

総合討論

参加費 会員 2,500円 (協賛学協会会員を含む)

会員外 3,500円 当日受領

申込方法 (はがき使用) 氏名，住所，勤務先を記入し，9 月15日までに(社)腐食防食協会

(〒101 東京都千代田区神田神保町 2-23)

宛にお申込みください。TEL 03-261-3275

欧文誌 (Trans. ISIJ) への講演概要 (第100回大会) 投稿案内

本会は会員各位の研究成果の発表の一つとして、講演大会を年2回(春・秋)開催いたしております。編集委員会では当講演大会をより良くするため、ポスターセッション方式による講演の導入や、最近では欧文誌を通して広く海外からの参加を呼びかけるなど種々検討を重ねております。

ご承知の通りわが国における鉄鋼生産技術は世界の注目を集めており、その成果及び動向が最も早く把握できる手段は当春秋講演大会およびその講演概要集であります。海外においても当講演内容には非常に関心が高く、本会への講演内容に関する問い合わせは相当の数にのぼっております。

以上のことから本会編集委員会で種々検討の結果、春秋の講演を早い時期に欧文誌で海外に紹介することは大変有益であるとのことから、昭和55年1月発行の欧文誌から講演概要(英文)を掲載することに決定いたし、試みに昨春秋の講演中より英文講演概要を勧誘いたしました所、大変好評をいただきました。今100回(昭和55年10月)大会は、下記により公募いたしますので、奮ってご投稿下さいますようご案内申し上げます。

記

- I. 副原稿(コピー原稿)締切日 昭和55年10月31日(金)
(55年7月7日締切の講演原稿(和文)と同時に提出も可)
- II. 原稿枚数 本会所定の原稿用紙1枚(図、表、写真を含む)
(お申し出いただければ所定原稿用紙を送付いたします)
- III. 原稿内容 原稿は講演概演(和文)の内容とまったく同じものを原則とします。やむを得ず内容が異なる場合は、改めて英文原稿の和文直訳を同封して下さい。
- IV. 執筆の仕方 執筆者がタイプされた原稿がそのまま約80%縮尺され、オフセット印刷されますので下記ご留意のうえご執筆下さるようお願いいたします。
 - 1) タイプライターはカーボンリボンを使用し(ファブリックリボンは不可)、活字は原則としてエリート(12 pitch)でsingle space(64行)、2段打ちにして下さい。
 - 2) 図、表、写真は縮尺を考慮し作成して下さい。
 - 3) 英文タイトルは講演申込用紙に記入されたものが英文校閲のうえ講演概要集に掲載されますので、そのタイトルに従って下さい。
- V. 原稿提出
 - 1) 投稿のさいは、最初に副原稿(コピー原稿)1枚をご提出下さい。そのコピー原稿により英文校閲がなされ、その結果が編集委員会より連絡されますので、そのうえで本原稿を提出願います。
 - 2) 上記締切日以降は受付られません。

注) 副原稿(コピー原稿)とは、執筆要領にのつとつた形式でタイプされたもの、あるいは本原稿をコピーしたものです。

注) 講演概要投稿後、投稿規程に従って Research Article として投稿されることを歓迎いたします。
- VI. 欧文誌掲載
 - 1) 掲載にあたっては英文校閲がなされますので、結果によっては英文修正を依頼することがあります。
 - 2) 欧文誌(Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan) Vol 21 (1981), No. 1~6 に亘って掲載されます。
- VII. 原稿送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階
問い合わせ先 日本鉄鋼協会編集課欧文誌係 (Tel. 03-279-6021)

お 知 ら せ

本会出版物に掲載された記事の著作権移転について

近年科学技術の発展とともに、情報量は増大の一途をたどり、これに伴い各種複写機が普及し、各面において知識・情報の伝達に多大の便宜を与えております。しかし、この反面オリジナルの研究著書等の無断コピー、翻訳、転載等、従来とは比較にならない規模と範囲で著作権が侵害されております。

このような実状に対処するため、わが国では昭和50年、米国では53年に著作権法の大幅改正が実施されました。これらの事態は学協会にも極めて大きい影響があり、何らかの新しい対応が迫られておりますが、各学協会でも著作権をそれぞれの学協会に帰属させる方向で検討を始め、すでに実施した学協会も増えてまいりました。

また、最近本会の出版物においても著作権の侵害された例が2, 3出てまいりましたが、このような問題について、著者から問い合わせをいただいても現時点では本会に著作権が帰属していないため、何らこれに対処することができない状況でございます。

今後、国内外を問わず著作権侵害に関する問題はますます増大するものと思われまますので、本会においても編集委員会を中心にして著作権を本会に帰属させることを前提に検討してまいりましたが、このたび理事会および第65回通常総会におきまして本会出版物の著作権につき下記のように決定されましたので、ここにお知らせいたします。

なお、著作権が本会に帰属することによりまして具体的には次のことが実行されますので併せてお知らせいたします。

- 1) 国内外との連絡、交渉等、事務処理は本会が行います。
- 2) 本会の公開出版物の全部または一部を本会が他の目的で利用することができます。
- 3) 第三者が同様な利用を行う場合の許可は本会が行います。
- 4) 2) および3) の行為を行つた場合、著者にその結果を報告いたします。
- 5) 2) および3) の行為により収入がある場合、事務処理の諸経費が非常にかかるため、当分の間この収入を本会の運営費にあてさせていただきます。
- 6) 著者が自分の著作物の全部または一部を他誌等へ発表あるいは転載する場合は本会へ書面でご連絡いただきます。

記

昭和55年8月1日以降の本会出版物に掲載された記事の著作権は本会に移転するものとする。

第6回材料集合組織国際会議開催案内ならびに論文募集

The Sixth International Conference on Texture of Materials (ICOTOM 6)

日本鉄鋼協会では、標記国際会議を開催することになりました。ただ今1st Circularを発行して論文募集を行っておりますので、多数の御応募をお待ちしております。申し込み要領は下記のとおりです。

なお、Circularをご入用の方は下記宛ご連絡下さい。

1. 日 程 昭和56年9月28日(月)～10月3日(土)
2. 会 場 経団連会館11階国際会議場ほか
3. 協 賛 日本金属学会、軽金属学会、日本結晶学会、日本材料学会
4. 論文募集 下記部門の講演ならびにシンポジウムを募集しております。奮つてご応募下さい。

講演

- | | |
|---------------------------------|--|
| I. Techniques | V. Textures in Non-metallic Materials |
| II. Deformation Textures | VI. Texture and Properties |
| III. Recrystallization Textures | VII. Technological Application of Textures |
| IV. Transformation Textures | |

シンポジウム

“Orientation Distribution Analysis and Techniques of Orientation Measurements”

5. 用 語 会議はすべて英語でおこなわれます。

6. 講演申し込み 昭和55年11月30日締切

英文で300語ほどのSynopsisを同封の上お申し込み下さい。

採用決定後1981年6月までにプレプリント用の原稿(2ページ)、また会議当日本論文の最終原稿(10ページ)をご提出願います。

7. お問い合わせ

〒100 千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階

(社)日本鉄鋼協会 国際課 佐藤、青木 TEL (279) 6021